

第4回日本学連幹事会議事録

【日程】 2019年3月14日

【場所】 中津川市にぎわいプラザ

【議事録作成者】 上村 太城（慶應義塾大学）

【目次】

1. 新規地図作成事業について	3
2. アンチ・ドーピングについて	4
3. 渉外問題について	5
4. 今年度の総括と次年度の動きについて	6
5. 後援申請	10
6. 理事会報告	11
7. 部局報告	11
8. 地区学連報告	13
9. 次回幹事会について	13

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川克則	副会長	東京大学卒
山本徳高	次期アンチ・ドーピング委員	岡山大学
木村佳史	理事	山口大学卒
遠藤匠真	幹事長	大阪大学
西嶋就平	副幹事長	名古屋大学
竹内公一	会計	名古屋大学
森川俊成	事業部長	京都大学
山川登	広報部長	東京大学
上村太城	広報部員	慶應義塾大学
久野公愛	事務局長	日本女子大学
河村優花	事務局員	名古屋大学
臼井沙耶香	普及部長	東北大学
種澤遼太郎	渉外部長	東北大学
佐藤遼平	会計監査	東京大学
塩平真士	会計監査	北海道大学
上野康平	公認大会担当理事	東京工業大学
丸山真輝	インカレ・技術委員会担当理事	東北大学
林俊充	北東学連幹事長	岩手県立大学
渡辺鷹志	関東学連幹事長	慶應義塾大学
山下政泰	北信越学連幹事長	新潟大学
南雲裕貴	東海学連幹事長	名古屋大学
藤本拓也	関西学連幹事長	京都大学
下江健史	中九四学連幹事長	広島大学
西平楽	次期会計	東北大学
谷野文史	次期事業部長	筑波大学
山田基生	次期広報部員	東北大学
伊部琴美	次期普及部長	名古屋大学
佐藤珠穂	次期会計監査	法政大学
倉地草太	次期会計監査	北海道大学
白旗洸太	次期北東学連幹事長	北海道大学
大石洋輔	次期関東学連幹事長	早稲田大学
小森達郎	次期北信越学連幹事長	金沢大学
棚橋一樹	次期東海学連幹事長	名古屋大学
桃本一輝	次期関西学連幹事長	大阪大学
山内優太	次期中九四学連幹事長	広島大学

1. 新規地図作成事業について

遠藤	<p>次年度幹事向けに、制度の概要を説明する。</p> <p>大学クラブが大会開催するために、地図作成業者を指定して地図作成を委託し、学連のお金を拠出して地図を作成する。大会開催後、作成した地図の著作権は最終的に日本学連が保有する。</p> <p>費用規模としては幹事会内での決によりゴーサインを出すことができる。ただし費用が莫大になるため、業者から提出された見積もりが妥当かどうかを幹事会で監査している</p> <p>まず、申請依頼書から確認する</p>
山川克則	<p>農工大が立案した第7弾の事業について説明する。</p> <p>第6弾の矢板高塩での茨城大大会の開催を受けて、山川から大会開催を農工に持ち掛けた。</p> <p>インカレ後に、新規範囲を使った試走を行う程度には話が進んでいる。</p> <p>毘沙門山歴代販売記録をご覧ください。ファイルに過去の農工大大会の記録を記載している。</p> <p>茨城大学と農工大学が</p>
遠藤	<p>事業の狙いを補足すると、独力での大会開催が困難な小さなクラブが久しぶりに大会を開催するのを支援するという狙いがある。</p>
山川克則	<p>山川氏以外の業者を通して新規地図作成事業を発足させることも可能ではあるが、学連幹事会が原案を可決するかどうか、という点において高いハードルがある。</p>
遠藤	<p>1回の大会でペイするものではない。将来的な投資という面があり、学連の資産価値を高める方向の案が</p> <p>山川氏の尽力により、矢板日光地区では渉外地盤が安定しており、多くの事業が発足してきたが、将来的に、突飛な地域で事業が企画された場合は、事業内容を吟味して慎重に審査する必要がある。</p>
山川	<p>今回の大会の全般的な展望と意義を説明する。</p> <p>毘沙門愛宕山の接合はかねてからの宿願である。</p> <p>10月の全日本を見据えた大会にプロデュースできる上、夏季休暇期間であり、学生が学業を犠牲にせずコミットしやすい。</p> <p>毘沙門の販売実績はこれまでに4942枚、108万7100円回収している</p> <p>参加実数は400人程度が見込める。</p> <p>新規地図作成事業が多くの学生クラブの復活、活性化の契機となっているため、今後も継続して活動したい。</p> <p>補足として、接合地図の爆発的販売例に関して説明しておく。</p> <p>接合地図の利益は時として莫大になることがわかる。長い目で見て学連の財産となるだろう。</p> <p>2018年12月の108式では、著作権代のみで約150万円の売上を計上し、そのうち学連には27万円程度の利益を得ることができた。</p>

遠藤	では、今回の事業の妥当性について細かく確認していきたい様式2を確認してください。 価格の基準は、新規範囲は1haあたり6000円、既存範囲の修正は4000円となっている。
山川克則	範囲が広いと、既存範囲の修正4000円ではなく3000円に設定した。 新規範囲に関しても、急崖など、人を寄せ付けない部分は減額する。 接合がメインであり、調査できない範囲は競技的に使わず、作図のみとなるだろう。 今回の地図は過去の事業と異なり、調査できない範囲を多く含むため、過去の議論で導いてきた価格基準を適応するのは適切ではないと考えている。 明確な見積もりではなく、安全を優先して地図を作成することは齊藤理事からの承認を得ている。 最後の決済では、実際の調査後実績に基づいて多少減額されるだろう。
遠藤	資料を参照する時間を与えるので、幹事の諸君はじっくり確認して審査してほしい。
佐藤遼平	様式4の内容について質問がある。 急崖部などは逆に調査に時間がかかってしまい、減額ではなく増額しなければならない、ということは考えられないか。
山川克則	西村氏や宮西氏によれば、急斜面エリアは体力的に問題がなければ調査にさほど時間がかかるわけではないとのこと。 増額した結果、幹事会内で決済可能な200万円を超えてしまい、大会開催後の総会承認が必要になる、といったことは考えにくい。
遠藤	地図作成費に関して、ヘクタール当たりの調査費の設定が妥当かどうかは新幹事も意識しておいてほしい。 それでは、地図事業第7弾について、159万円の支出の承認をとる。賛成される方は挙手をお願いします。
	15人中15人賛成で承認された

2. アンチ・ドーピングについて

西嶋	前回幹事会からの変更点から説明する。 資料をご確認ください。 アウトリーチに関しては、JADAの担当者が作成中のため先行き不透明となっている。 E-learningは、スマホ向けE-learningの開発が遅れており、目処が立たないため、2020年度秋インカレからの選手権クラス出場要件とする、に変更する。 そのため、2020年3月の春インカレ後の総会後に、加盟校対象とした講習会
----	--

	<p>を行いたい</p> <p>広告掲載については、インカレ、学連後援大会のプログラムには広告を掲載してもらおう。事務局経由で連絡してもらおう。</p> <p>アンチ・ドーピング委員会を常設とするには連盟規約を変更する必要があるため、総会で決を採る必要がある。</p> <p>来年度からは、西嶋と現岡山大学4年の山本氏、現横浜市立大学の阿部氏の委員3人態勢で進めていく。</p>
--	---

3. 渉外問題について

白井	<p>これまでの流れを確認する。</p> <p>永久クローズトレイン、インカレトレインの開催ハードルが上がっているなど、オリエンテーリング界を取り巻く状況が悪化している。幹事会としては競技者マナーの低下を是正するための方策を模索していきたい。</p> <p>今年度の秋に各大学から渉外問題の事例を送ってもらった。</p> <p>今回の幹事会では、各大学から集めたトレイン渉外方法が適切であるかを確認することと、マナーBOOK&渉外問題事例集の内容が妥当であるか、修正すべき点はないかを確認したい。</p>
	<p>まず初めに、各大学のトレイン渉外方法が適切であるかを確認する。資料をご確認ください。</p> <p>クラブごとに渉外の仕方が異なっていることが分かった。できれば、トレイン利用時の渉外担当は固定するほうが望ましいのではと考えている。</p>
	<p>普段練習会で使っているトレインの渉外と、自クラブの保有トレインの渉外の区別があいまいになっている回答が見受けられるが、意図が伝わっていない可能性が高い。もう一度一から回答を取り直すのも大変なので、どういった情報が欲しいかを具体的に整理したほうがよい。</p>
白井	<p>次に、マナーBOOK&渉外問題事例集の内容が妥当であるかを確認したい。今回の総会で共有する予定である。</p> <p>ブックの形式について</p> <p>読みやすいように絵を付け、1ページにまとめた</p>
遠藤	<p>コンセプトはとても良い。文章量としては、長すぎても読まれないため、この程度が妥当か。</p> <p>渉外事例を一般的なルールに絡めて示したほうが、具体性が増して分かりやすいと思われる。</p> <p>今後のブラッシュアップは前提であるが、総会でプロトタイプとして紹介する分には問題なさそう。</p> <p>特に大きな問題はなさそうなので、</p>
白井	<p>今回の総会では紹介にとどめる程度で</p>

遠藤	各クラブに今後どのように運用してもらおうかを決めたい。 webに掲載するだけでは利用されないだろう。
臼井	この3つの案がある。 なし 教育を義務づけ、報告してもらう 教育をインカレの参加義務とする
遠藤	学連としての本気度を示すには、マナー教育の報告を義務付けてペナルティを設ける方が、効果があるだろう。総会では、マナーブックの存在と、マナーブックによる教育をしてもらうことを通知していこう。
臼井	報告のタイミングはいつまでにすべきか。
遠藤	入部確定期に、新入部員セミナーをやってもらおう中で利用してもらいたい。
山川克則	特に1年生への啓蒙を進めてほしい。 渉外事例を2点渉外メールで連絡した 区長さんなど、トレインの土地の管理者の個人情報を出さない、伐採作業地を強行突破しない、許可という言葉を使わないことを徹底してほしい。 枝や泥を道に残さない。 インカレ実行委員会もトレイン内に資材を放置してしまったという背景がある。 事例を積み上げ、事例集を作成することはとても有用である。 また、渉外問題の事後報告を徹底させてほしい。
臼井	周知の仕方について マナー教育を行ってもらい、報告を怠った場合の懲罰はどの程度が妥当であるか。
遠藤	インカレかたつけ程度か。
山川克則	2018年5月の再度公園のように、主催者に落ち度がほとんどなかったものの、渉外問題に発展するケースも認識してほしい 全日本スプリントでは、渉外問題を起こさないことに重点を置いて運営を行ったが、オリエンティア全体としても渉外的重要性の意識を共有してもらいたい。

4. 今年度の総括と次年度の動きについて

遠藤	引継ぎを兼ねて、今年度の活動の総括を行う。 【人事組織と業務分担の改善】 幹事長の負担を減らすため、技術委員会担当幹事と、公認大会WG担当幹事を設置した。
----	---

	<p>地図事業に関して、規約を変更して、地図事業の規約改正担当者を会計から副幹事長に委譲した。(引き続き、幹事長と地図会計担当幹事は規約改正をチェックする。)</p> <p>渉外メーリスの担当者を副幹事長に委譲した。</p> <p>インカレメーリスを用意し、インカレ実行委員会と幹事会がパイプを持つようにした。</p> <p>来年度は、技術委員会担当幹事を廃止し、技術委員会手伝いという形で渡辺に委員会のサポートをしてもらう。学連合宿の開催や、インカレの枠計算など、学生の視座から技術委員会に働きかけてほしい。</p> <p>広報部の仕事量が過多であるため、来年度は3人体制とする。広報部長は議事録作成以外の、日本学連としての広報戦略なども検討してほしい。</p>
	<p>ここで、次期学連幹事の自己紹介を行った・</p>
遠藤	<p>【文書保管と業務引き継ぎ】</p> <p>学連が著作権を保有する地図データは山川氏が管理しているが、データのバックアップを、学連側でも保有したいという思惑がある。</p> <p>ビジネス用のアカウントを導入することも検討したが、投資規模にマッチしない。今後はグーグルアカウントを作成し、幹事会の資料などは共有フォルダーに入れていこうという構想がある。</p> <p>これまでは業務内容の引継ぎ方法が統一されていなかったが、関西学連の加筆訂正式の引継ぎ資料を今年度の幹事は作成してほしい。</p> <p>【web 幹事会】</p> <p>幹事会の長時間化と、幹事会人員増加による予算圧迫により、従来通り幹事会を開催するのが困難になっている。</p> <p>メーリスや slack を活用することにより、幹事会を4回から3回に減らすことは十分に可能であると踏んでいる。</p> <p>実際に対面しない形での幹事会を構築できるよう、規約を改正することも視野に入れてほしい。</p> <p>【新規地図作成事業】</p> <p>事業規約に関しては、今後も継続的に改善が必要になるだろう。</p> <p>個々の事業の審査も、会計面や投資面などの視座から審査してほしい。</p> <p>【管理業務委託契約の改定】</p> <p>学連著作権の地図の印刷や販売、インカレで使う地図の印刷を指定の業者に委託する契約があるが、その契約の内容を改正してきた。</p> <p>河合会長に確認済みだが、現在はストップ</p>
山川克則	<p>【インストラクタ講習会】</p> <p>公開大会を開くためにインストラクタ資格を各クラブに設置することが求められたため、昨年8月に学連主催でインストラクタ講習会を開催した。</p>

	学生の入替わりを考慮し、今後も隔年程度で開催してほしい。
木村	日本体育協会との関連でディレクタ資格が変更されるが、インストラクタ資格は変更されない。
遠藤	<p>【基盤維持契約】 事務局の名義貸しやインカレの事前渉外など、現状学連が継続していくための雑務を山川氏に委託しているが、その業務の全容をパッケージ化して明文化した契約にまとめたい。 UNIVAS に委託することで事務局を移転できるとされているが、UNIVAS 側からの連絡がなく先行きが不透明。 また、インカレ資材の管理も大きな問題となっている。</p>
山川克則	<p>インカレ実行委員会に関して補足的に説明する。 2019 年秋インカレは実行委員会がまだ発足していないため、閉会式の中でインカレ旗を自分が受け取り、来年の構想について紹介する予定。 東海地区での連続開催となってしまっており、OBOG に負担がかかっているため、青山高原で 2020 年度春インカレのための予備渉外も進めている。 2019 年度春インカレは委員会が発足した。 2020 年度秋インカレは、自分以外の業者が企画立案の段階から参入する形を検討している。</p>
遠藤	<p>山川氏がインカレにコンサルの立場として参画し続けてきたのは、日本学連の副会長であるからである。 これまではこの契約がなくても業務に大きな差し障りがなかったが、海老理事からの進言もあったため来年度以降はこの契約の明文化を目指してほしい。</p>
遠藤	<p>【渉外問題】 学連としてマナーの啓蒙活動や渉外問題調査を進めるため、各校に調査を行い、資料を作ってもらった。今後も形骸化しないように</p> <p>【インカレ】 2015 年度からロングとの併催でインカレスプリントを開催しているが、テインの問題など、継続的開催のための課題は多い。インカレメーリスを用いて実行委員会と連携をしてほしい。 インカレ実施規則の改正個所のリストアップが長年放置されていたり、インカレリレーでの一般 B クラスの設置を打診したり、インカレ資材のリストアップ化など、議題は山積されている。幹事会のメインの議題であり今後もキヤッチアップしてほしい。</p> <p>【新加盟制度】 これまでは加盟員の資格規定が曖昧であり、正規の学籍を有しない学校に所属する者が現れた。 加盟員資格を改正し、ねじれ加盟を解消・大学院の加盟校への追加・年齢制限の設置が主な改正点となる。</p>

	<p>各地区学連規約を一斉に改正する必要があるため、来年度も遠藤が規約改正に協力していく。 総会では方針を打ち出し、反対意見を募る</p> <p>【35周年事業】 2019年度12月に35周年を迎える。河合会長主催の功労者表彰、瀬川氏主宰の記念冊子作成事業、遠藤主催でキャンパス0ツアー、学連ロゴの作成の4本柱が事業の中心となる。 臨時委員会の発足を、総会で報告することになる。</p> <p>【学生ランキング】 予想ランキング作成者の大木氏に接触した。大木氏いわく、レースの順位が高いランキングと、セレで参考にするランキングは性質が異なるため、学連で作成することになるだろう 開発チームを募りたいが、セレで使うことになるので、地区学連幹事長に依頼したい。 前提として、開発者が卒業しても運用できるような、わかりやすいランキングにする必要がある。</p> <p>【公認大会WG】 議論に大きな進展はなかったものの、今後の予定を連絡する。 3月中旬に中間報告を作成、webに公表、パブリックコメントを募る。 5月25日に最終報告を行う。詳しい改革案は議論中。 来年度は、学連から担当者を派遣しない予定である。</p> <p>【UNIVAS】 UNIVASへの加盟の方針を決めた。 法人でなければ加入できないため、JOAに加入してもらおう形をとっている。 具体的な進展に関しては、谷野から報告してもらおう。</p>
谷野	<p>UNIVASの説明会に参加し、各競技団体への具体的なお願いを確認したため報告する。 UNIVASでは大学対抗の競技横断の順位を出したいとのこと。競技人口や大会成績に応じて、大学にポイントが加算される。 恩恵として、UNIVASによる競技の映像配信事業がある。UNIVASの資金でインカレを映像配信していくことが可能になるが、インカレ実行委員会と連携、相談してやっていく必要がある。 筆谷さんとの話し合いの中で、UNIVASは誰に担当するかが問題になった。</p>
遠藤	OBが担当するのか。
谷野	UNIVAS側も方針が決まっていない。
遠藤	理想は担当理事を設置すること
木村	担当者がころころ変わらないほうが望ましいだろう。現実的に、他競技はOB

	<p>などを担当窓口とするだろう。</p> <p>またこれに関連して、UNIVAS の発足総会がインカレ翌日に行われる</p>
山川克則	<p>各校のクラブごとに、UNIVAS に加盟するかどうかの足並みがそろっていないようであるが、それに関しては質問したい、</p>
谷野	<p>UNIVAS ポイントは、競技成績に応じて各校に配分されるが、加盟していない大学にはポイントは加算されない。例えば、筑波大学の体育会は UNIVAS 加盟を一年見送ることが決定しているため、インカレで好成績を残したとしてもポイント加算の対象外となる。オリエンテーリングの加盟校の中で、UNIVAS に加盟しない大学は半数ほどを占めているようだ。</p>
木村	<p>推測だが、アメフトの問題からきているのでは。現状の UNIVAS はスポーツの振興以上に、各大学のスポーツのガバナンス強化という性質が強く、急に進んだためスポーツ庁も対応できていない面がある</p>
谷野	<p>UNIVAS 加盟に関して、今回の総会で共有すべきか。ポイントなど、目処が立っていない面も多く、混乱を招かないか危惧している。</p>
遠藤	<p>まだ様子見の段階であるので、総会では方針を出すにとどめる</p> <p>また、加入後も流れを見て、回避に対する割に合わなければ、脱退なども視野に入れてほしい</p>

5. 後援申請

河村	<p>名相オリエンテーリングクラブと、金沢大学オリエンテーリングクラブより後援申請が提出されている。</p> <p>まずは金沢大学大会</p>
遠藤	<p>期限内に提出されていたか。</p>
河村	<p>はい。</p>
遠藤	<p>SI 有識者を招聘するため、コントローラ派遣を要請されている。</p> <p>初めての事例になるが、この場合は適任者を紹介すべきなのか。それとも派遣する費用も負担すべきなのか。</p>
木村	<p>推薦するのみでは。</p>
遠藤	<p>北信越に SI に造詣が深い人材がいなかったため、この要請がなされたと思われる。学連より候補者の推薦はできるが、費用負担はできない、という方針で進めたい。</p> <p>費用負担が難しければ、Eカードでの計時を勧めるのも一手である。</p> <p>事務局経由でその旨をメールで伝えてほしい。</p>
河村	<p>わかりました。</p>
遠藤	<p>7 月 21 日の金沢大学オリエンテーリング大会の後援申請について承認をとる。賛成する人は挙手をお願いします。</p>
	<p>15 人中、15 人賛成により承認された。</p>

遠藤	続いて、名相大会の後援申請に移る。 後援申請について承認をとる。賛成する人は挙手をお願いします。
	15人中、15人賛成により承認された。
山川克則	農工大大会の後援申請も、次回幹事会にて提出してもらう。

6. 理事会報告

遠藤	新理事として、天野均氏を増員する運びとなった。 新理事の承認について、賛成される方は挙手をお願いします
	15人中、15人賛成により承認された

7. 部局報告

遠藤	今回欠席されている大西氏からの、技術委員会報告を代理で報告する資料を参照してください。今回のシード選手選考の際に、インカレに出場しない選手が選考されてしまったため、新たな選考方法を提案している。新たな選考方法では、地区学連幹事長がセレ通過者のリストをメーリスで流すことになっている。 この方法では、幹事会側が主体的にシード選手選考の初期段階にかかわることができ、選考の地帯を防止することが可能であると思われる。
	挙手制により幹事の意見を確認した。賛成多数となり、新たな選考方法が可決された。
遠藤	地区学連幹事長は、セレが終わり次第エリートリストを流すことを忘れないようにしてください。
遠藤	続いて、学連合宿の日程について確認したい。
林	昨年 of 猛暑を受け、北東インカレの日程を従来の8月から9月に移す可能性がある。
谷野	旧インハイが第2回の日程原案と重なっている、JOAが主催であり、学連合宿とのバッティングは避けてほしい。
遠藤	結論としては、第1回、第4回は仮確定とする。 木村さんはオリエンテーリングコムに掲載をお願いします。
臼井	2019年度の東大大会の後援申請について確認したい。
上村	2018年9月の幹事会にて後援申請を確認し、承認したはずである。議事録にも記載されている。
遠藤	それでは、部局報告の続きを行う。 幹事長からは特にありません。

西嶋	副幹事長は、2月22日にアンチ・ドーピングの大学生・指導者向け説明会に参加した。
竹内	2018年度の中間報告と、2019年度の会計予算案を作成しました。資料をご確認ください。学連合宿補助を計上し、第3回までの幹事会の費用を反映した。インストラクタ講習会の費用が確定したため反映した。2017年のインカレリレーの黒字返金は未だ振込である。
佐藤遼平	幹事会会場使用料の中に、総会会場の使用料は含まれているか。わかりやすいように、幹事会と総会の費用は分けて記載すべきと思われる。
竹内	含まれている。今後は分けて記載します。
遠藤	幹事の人員増加に伴い、幹事会交通費などがかさみつつある。経費削減を図るため、ガイドラインを制定してほしい。
木村	2019年度予算案について UNIVAS 関連の費用は計上されているか。
遠藤	含まれていない。 アンチ・ドーピング委員会にも予算を設定する必要がある。5万円程度か。
遠藤	それでは、2018年度会計中間報告について承認の決を採る承認される方は挙手をお願いします。
	15人中、15人賛成により承認された。
遠藤	続いて、2019年度会計予算案について承認の決を採る承認される方は挙手をお願いします。
	15人中、15人賛成により承認された。
河村	事務局の引継ぎについて、事務局メールアドレスの変更を検討している。加盟登録書類をペーパーレス化し、エクセルファイルで管理していく予定。来年度の下江への引継ぎは、渉外登録からお願いする予定である。
森河	事業部は、幹事会の会場を予約した。 また、今回の春インカレのシード選手の動画を収集した 今後の後夜祭、講習会の会場の準備を行っている。
種澤	いつも通り、矢板日光地区に回覧板を送付した
山川登	広報部は、各種広報をweb上で公開した
遠藤	幹事長から報告を一つ思い出した。北海道協会より、スキー0のプロモーションビデオのDVDを配布していただけることになったため、そのとりまとめを行った。
臼井	渉外部はインカレ観戦ガイドを公開した。 マナーBOOK&渉外問題事例集を作成した。
丸山	インカレ・技術委員会担当幹事は今後引継ぎを行う。
上野	公認大会WGでは、メーリスで意見交換を行った。 今後は、3月中にこれまでの議論をまとめる。
佐藤遼平	活動報告書の集まりが芳しくない。 平成29年度の幹事は報告書を提出してください。

8. 地区学連報告

林	【北東】春インカレの開会式の日には第5回総会を行う予定である。
渡辺	【関東】2月26日に引継ぎの総会を行った。前年度からの更新忘れがあり、規約改正の文章の整理は3月末までかかる見通しである。
山下	【北信越】総会終了後に引継ぎの北信越総会を行う予定である。
南雲	【東海】会計規約を作成した。
藤本	【関西】2月18日に総会を行った。3月30日に定例戦を開催する予定である。
下江	【中九四】3月16日に総会を行う。
木村	スキーオリエンテーリング委員会より報告を行う。 1年かけて選考を行い、冬季ユニバーシアードに選手を2名派遣した 次回は2021年スイスで開かれる予定で、2023年アメリカに開かれる 1年かけて選考するので、まだまだ多くの人に参加してほしい。 会計報告はなし。

9. 次回幹事会について

遠藤	次回幹事会はこの場で決めることではないが、例年6月の東大大会前日に行われている。 場合によっては、ほかの日程も検討してほしい。
----	--